

新宮山彦ぐるーぷ第2084回

持経宿・平治宿の巡回整備

◇実施日：2020年6月21日（日）晴

◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、乾克己、志岐敬、梶野照雄、湯川一郎
6名

コロナウイルスと梅雨の時期が重なり、ぐるーぷとしての公式行事は休憩中であるが、梶野君から21日に持経・平治に行くところとの連絡があり、沖崎と、前日小森に泊っている児嶋、乾の2名、ちようど帰省していた湯川君、そして志岐、梶野の合計6名で出向くことになった。



持経宿に到着



沖崎は二輪車で



千年松のお堂を開ける

午前8時半、池原のいつもの場所に集合して持経宿に向かう。バイクで参加した沖崎が先行してゲートを開けて待つ。

林道は、入つてすぐから3km位まで小石が路面に散乱しているので要注意だ。先日久しぶりにパンクした梶野車も今回は無事に持経宿に到着、午前9時半だった。

児嶋さんはソーラー発電のコントローラー取替とトイレに照明を設置のため乾さんと二人で持経宿に残り、残りの4名で平治宿に出発した。



間違った踏み跡に倒木を

赤テープを付ける

水場の掃除

千年松のお堂を開けて、風で閉まらないように落ちていた枯枝でつつかえ棒をする。帰路に閉める予定だ。中又尾根分岐手前のピークで先頭を歩いてきた志岐さんが違う方向に行きかけた。あまりにもはつきりした踏み跡が西方向に延びていて、注意していないと違う方向へ導かれてしまう。長めの倒木を集めて通せんぼした。湯川君は持参の赤テープで目印を付けた。この場所には後日標識を設置

する予定だ。

平治宿での予定作業は、水場の清掃、水場へ降りる道の点検、監視カメラのメモリー交換であるが、特に水場へ降りる道の青い脚立の下の谷がかなり荒れて、歩きづらい状態になっている。そこで、この谷を迂回する方法を探ることになった。

現在の下降口から少し南側の斜面を下っていくと、ちようど谷を越えたところに出て、完全に谷を迂回できることが判った。斜度はそこそこあるが、斜面が広く、立ち木もあり長いトラバースの必要も無いので、容易に道は造れそうだ。本格的な道づくりには栈木や杭の準備が必要だが、取敢えず道の体を成すように少し削ってロープを張って、その後に段差や栈木を整備していくようにしたいと思う。今後、整備の段取りを皆さんと詰めたい。



水量は多い

水場は前日の雨で水流が激しく、梶野君が持参したホースで水を吸い出してみるが、排出量よりも流入量が多く、水を掻い出して掃除



平治宿を離れる



お堂の扉を閉じる

するところまでは至らなかったが、細かい泥や砂は殆ど吸い出せた。グレーチング蓋のお蔭で大きな落石は皆無。今後も貯水槽が石で一杯になることは無いだろう。

小屋に戻って昼食。食後12時20分に平治宿を離れた。平治宿トイレのドアが変形したのか膨らんだのか、完全に閉まらない状態になっていた。当たっているのは3mm位なので、次回カンナを持ってきて削ってみようと思う。



ホースの撤去作業



撤去したホース



本日の参加者

午後1時20分持経宿に到着。持経宿作業班のお二人も作業を終えていた。暫く休んだ後、水場から小屋まで引かれていた導水ホースを撤去する。沖崎、梶野の2名がホースの引かれているところまで登って切断、林道の4名が引っ張って落とす。20m位づつに切るが、急斜面の上、柔らかくて足場が悪く、危険を伴うので慎重な作業となった。ホースの傍には設置時に歩いたと思われる踏み跡も認められた。

30〜40分作業して100mほどを撤去したが、これをここまで持ちあげて設置した先輩方のご苦労に頭が下がる思いだ。

ホースの撤去作業を始める前に、昨夜持経宿に泊まって八人山をピストンしてきたグループが戻ってきた。林道ゲートに一台車が停まっていたが、このグループの物だった。

次回の持経・平治宿巡視は、持経はトイレ照明にタイマー設置、ガソリンの補給、水場からのホース撤去。平治は水場径の新道確保とトイレトーパー補充。それと中又尾根分岐手前のピークに道標設置と、盛りだくさんになる。

(記：沖崎 写真：梶野・志岐)

行動タイム

08：30 スポーツ公園↓9：30 持経宿 09：54→10：54 平治宿↓11：14 水場↓平治宿 12：30→13：20 持経宿 14：20→15：25 スポーツ公園